特許庁職員に聞いた！～特許庁サマープログラム体験談～

特許庁サマープログラムに参加しその後官庁訪問を経て特許庁に入庁した
1年目の若手特許審査官補３名に、イベントの魅力についてインタビューしました。

（Cさん）特許庁で行われている業務の全体像を１つのイベントで把握できるのが特許庁サマープログラム（サマプロ）のいいところかなと思います。

（Mさん）個別業務説明や知財ゼミといったイベントもありますが、じっくりと時間をかけて特許庁全体を知ることができる唯一のイベントですよね。

（Iさん）特許庁で特許審査が行われている以外は、ほぼ何も知らない状態で参加しました。**併任出向業務の講義**があり、情報技術統括室でシステム管理をしている方の話を聞いて、こういう仕事もあるんだ！と、新鮮に感じました。

（Cさん）私は事前に知財ゼミに参加していましたが、審査業務メインの回だったので、発展途上国で特許審査の支援する取組の話を聞いて、業務の幅広さに驚きました。

（Mさん）私は併任出向業務について知財ゼミで事前に知っていましたが、中身の部分をより深く知ることができ、キャリアのイメージが掴めました。**審査業務実習（模擬案件で実際に特許審査を行う実習）**も難しかったですよね？

（Iさん）難しかった。事前の講義で、新規性・進歩性の判断を行う意義と手法については理解できたのですが、いざ模擬案件で判断をするとなると、かなり苦戦しました・・・。

（Mさん）発明を要素ごとに分けて判断していく手法には驚きました。パッと見では同じと思える発明同士でも、**細かい記載を見逃さずにしっかりと違いを見出して判断していることを体験できました。疑問が生じたら目の前の審査官にすぐに聞くことができたのも良かった**です。

（Cさん）実習を経験してみて、新規性・進歩性の判断は、議論する度に理解が深まると感じました。

（Iさん）現在は入庁後の研修を終えて、実際の案件を審査していますが、やはり判断には悩むケースが多いと感じます。

（Mさん）あのときは簡単な案件をやっていたんだなと、今では振り返っています（笑）。

（Iさん）他に印象的だったのは、バーチャル庁内見学です。オンライン参加でも特許庁全体を見て回ることができ、庁内は暗いという先入観をなんとなく持っていたのですが、エントランスの明るい雰囲気が伝わってきました。特許庁で開催される対面のイベントにも参加したいと思うきっかけになりました。

（Cさん）私もオンラインでの参加だったのですが、対面参加者と同じ内容のプログラム※を体験できたのがよかったですよね。遠くにいながら参加できるのはもちろんですが、**周囲の参加者の学年や進学・就活の状況を気にせず、自分のペースで参加できる**のがメリットです。

※１日目は対面・オンライン共に同じプログラムです。

（Mさん）プログラムの最後の座談会では、審査官に色々な質問をすることができ、職場の雰囲気がわかりました。決まった曜日に定時退庁を意識して仕事をしている話を聞いて霞ヶ関のイメージが変わりました。

（Iさん）あと細かいところですが、オンライン会議ツールや業務用のアプリは何を使っているのかとか、**国家公務員のリアルな仕事ぶりを見られた**ことは、結果的に特許庁を目指す後押しになったのかなと思います。サマプロに参加した時点では、まさか自分が今特許庁に入庁しているとは思っていなかったですが・・・（笑）。特許庁に少しでも興味がある方であれば、そのくらい気軽に参加していただければと思います。

（Cさん）私は学生時代に、研究に向いていないけど理系の知識は活かしたいと思っていたところ、サマプロ参加を通して自分の希望に合った仕事ができそうなことがわかりました。**特許庁の業務内容を理解する機会として、このイベントを活用していただくのがおすすめ**です！